

矢作川流域圏懇談会 設立総会 議事概要

日時：平成 22 年 8 月 28 日(土) 14:00 ～ 16:00

場所：豊田市福祉センター 講堂

1. 開 会

2. 開会挨拶

国土交通省中部地方整備局 豊橋河川事務所所長 畠山 慎一

豊田市 副市長 永田 健

3. 出席者紹介

4. 設立趣旨及び規約（案）について

【事務局より説明】意見等はなく、設立趣旨及び規約は拍手をもって承認された。

5. 座長選出

【司 会】

- ・立候補あるいは推薦をお願いしたい。

【西尾市：神谷副市長】

- ・様々な会議で経験豊富な学識経験者の方を推薦したい。

【司 会】

- ・他に推薦はないか。なければ、学識経験者の方から座長を決めたいと思うので事務局から何か提案はないか。

【事務局】

- ・矢作川の川づくりに造詣の深い名古屋大学大学院工学研究科の辻本先生にお願いしたいがどうか。

【司 会】

- ・事務局からの提案について、賛同して頂ける方は拍手をもって承認頂きたい。

(拍 手)

- ・座長としては、辻本先生に決定した。副座長については、今後、地域部会にて部会座長の選出後に決定する。

【座 長】

- ・矢作川については、10 年以上も関心を持っている。矢作川のいい川づくり、流域づくり、圏域づくりのお役に立ちたい。
- ・流域圏懇談会の方向性は間違っていないが、そのためには駆動力が必要であり、市民、行政、関係団体、民間、研究者のサポートなどもあって育てていくものであり、しっかり懇談会を支えたい。
- ・これまでは、利害に関わる 2 者で解決を図ってきたものを、矢作川の環境を考える懇談会では、みんながつながっていることを見ながら、いろいろともの考える懇談会を行ってきた。
- ・また、河川整備計画の検討時には、すべての問題が河川だけでは解決できないことを痛感した。

- ・河川整備計画が策定され、市民、行政、学識経験者等が一体化した組織が今回できたことはすばらしいこと。今後、この組織をどう動かすかが重要であり、微力ながら力添えをしたい。

【司 会】

- ・ここからは、座長に進行をお願いしたい。

— ここから座長が進行 —

【座 長より組織形態の説明】

- ・本日は、学識経験者のみなさんにも一言ずつ挨拶をお願いしたい。

【蔵治先生】

- ・専門は森林と水の関係。この懇談会は、河川整備計画に基づき設立されたにもかかわらず、森林のことも考える部会を設置したことが画期的、挑戦的である。
- ・自分の知識を最大限活用して、みなさんから問題提起を頂き、3県にまたがる森林をどうしていくか、何らかの方向性をだしていきたい。

【内田先生】

- ・専門は、水生昆虫であり、専門が直接的に役立つことはない。ただし、これからの土木では、いろいろな立場の人が話しあいを通じて問題解決をすることが重要だと考え、川で起こっているいろいろな問題を学生たちに考えてもらっている。
- ・いろいろなことを一緒に考えていきたい。

【鷺見先生】

- ・矢作川との関わりとして、リバーカウンセラー、自然再生に関わってきた。
- ・もの、人、生き物の3者の関係が改善されるようにしていきたい。

【青木先生】

- ・専門は、海的环境・防災。海の研究を行うにつれ、川・山とのつながりが重要で、川・山の問題を知って対策することの重要性を感じている。
- ・課題については、「見える化」だけでなく見ようとするのが重要だと思う。そのため、海の側は山の方を見なければならないし、山も海のことに関心を持ってもらうことが重要。

【鈴木先生】

- ・専門は、海の干潟、藻場。矢作川河口部は、日本でも最大のアサリの生産の場である。
- ・干潟の役割を科学的に解明したのは矢作川が初めてであり、様々な人たちの努力で干潟を増加させている。
- ・現在でも海には砂がなく、山では砂の処分に困っているなどの矛盾があるため、これを流域一体でうまくまわすしくみを考えていきたい。

【洲崎先生】

- ・専門は、森林植生学。矢作川流域の森林率は7割であるが、森林の荒廃とあわせて、山間部の人口が減少している。
- ・林業の振興が山間部の地域再生につながり、それが森林再生にもつながると思うので、流域内の人、もの、お金、知恵を使って、山間部の再生につなげていきたい。

い。

【石田先生】

- ・伊勢・三河湾の海の水質、生き物を見てきた。海から河口域を見るときわめて特別な場所である。河口域には、 $1\text{ kg}/\text{m}^2$ の生き物があり、最大では $10\text{ kg}/\text{m}^2$ もの生き物が住んでいる。
- ・ただし、河口域にも様々な問題があるので、海からの三河湾の考え方をつたえたい。

【宮川先生】

- ・内水面担当。若いころから川に興味を持っているので、みなさんと一緒に考えていきたいと思う。

【座 長】

- ・その他、丹羽先生は森林関係、山本先生は、内水面が専門と聞いている。
- ・懇談会にあたっては、利害関係者やいろいろな地域の人たちとうまく調整していかなければならず、公平性や透明性についてはこの会がサポートし、科学的合理性や客観性を確保するために、これらの学識経験者がサポートしていきたい。

6. 議 題

(1) 「市民会議準備会」の開催結果報告について

【事務局】

- ・(資料説明後) 暫定座長、副座長が決まっているので紹介したい。

【伊勢・三河湾流域ネットワーク：井上】

- ・市民会議の中では、いろいろな問題について、前向きな検討をしていきたい。有意義な会議にするために、技術的な情報を発信していきたい。

【矢作川「川会議」：碓】

- ・市民会議準備会では、この会議を内容のあるものにするための情報共有や会議の期待・不安について話した。
- ・その結果を踏まえ、ホームページによる情報共有化やメーリングリストの検討など事務局の対応がよく、感謝している。
- ・このような会議がほしいと思っていたものができたので、この会が空洞化しないようにしたい。
- ・市民会議の主役は市民であり、その情熱と行動力が命であることから、みなさんと一緒に活かした市民会議にしていきたい。

【座 長】

- ・懇談会では、学識経験者や市民だけでなく、関係団体や行政機関も入っている。今後、事務局や学識経験者とも連携して、積極的に議論に加わってもらいたいので、関係団体や行政機関のみなさんから何かご意見はないか。

(特になし)

(2) 「矢作川流域圏懇談会」で扱う課題(案)について

【蔵治先生】

- ・山部会の課題の中に利水が入っていない。矢作川流域では、利水者が利水のため

に森林を購入した歴史もあり、森林と利水は密接な関係があるので、利水も山部会の課題として入れて頂きたい。

- ・利水者もぜひ、山（部会）に関心を持ってもらいたい。

【事務局】

- ・利水と山・森の問題がつながっているの、そういう観点で今後、地域部会の中で、課題の整理、議論をお願いしたい。
- ・山・川・海の部会参加については、各団体の希望で行っているの、今後の部会の活動状況や参加形態等の観点から参加の見直しをしてほしい。

【明治用水土地改良区：竹内】

- ・川部会だけに参加する予定であったが、造林事業や利水のための水源づくりも行っている。また、矢作川沿岸水質保全対策協議会の設立を呼びかけた団体である。そのため、山部会への参加も検討したい。

【座 長】

- ・資料の中では、山・川・海を切り離して整理してあるが、どれもリンクしていることで、そのために全体会議が企画されフィードバックする形となっている。
- ・資料４の流域圏の課題については、今後、各部会の中で見直しがあればいいと思う。

【鷺見先生】

- ・できるだけ、ワーキングのようなものを積極的に活用してほしい。流域分けをしているが、課題は、全体でつながっていることが分かっており、課題に関する話題は部会だけでは閉じないと思う。そのため、ワーキングを活用してほしい。

【座 長】

- ・全体会議や部会等の会議のしくみを円滑に機能していくためには、それぞれの会議、団体で根回しをしなければだめだということ。事務局では、それをワーキングというしくみとして考えている。

7. その他（矢作川・東海（恵南）豪雨１０年企画について）

【座 長】

- ・全体を通して何か意見はあるか。

【矢作川水系漁業協同組合連合会：新見】

- ・総合土砂管理の課題で、砂利採取の影響で、砂利が流れ淵を埋めており、漁業に影響を与えている。淵を埋めないこと、産卵場所を守ることに留意して海まで流してもらいたい。

【座 長】

- ・本日の説明ではなかったが、他の部会との連携をどうしていくか、ワーキングの中できちっと議論できるしくみを検討していきたい。

8. 閉会挨拶

岡崎市 副市長 加藤邦彦

9. 閉 会

以上